眼科後期研修カリキュラム

【研修における一般目標】

（１）　眼科の診療基本手技を習得、臨床の場で実践し、眼科外来診察を行う。

（２）　主要な眼科疾患の診断に必要な基礎的知識を習得する。
緊急性を要する疾患、感染性疾患への対策、low vision の患者の care などについての眼科診療の特徴も習得する。

（３）　診療を通して手術を含めた眼科治療、術前術後管理を習得する。

（４）　眼科で日常使用される点眼薬、内服薬の効能に関する知識を習得する。

（５）　チーム医療を理解し、他の医療メンバーと協調する。

（６）　自己評価を行い、診察・治療に反映できる。

【研修における行動目標】

１．　眼科的な基礎知識を習得する

（１）　眼球・眼球付属器の構造、視路の構造

（２）　視力・視野・屈折・眼球運動・両眼視など視覚生理

２．　診療基本手技を習得する

以下の検査を実施し、検査を解釈する

細隙灯顕微鏡検査、生体染色細隙灯顕微鏡検査
眼底検査
精密眼圧測定(空気圧式)
視力検査、屈折検査
眼位検査、眼球運動検査
立体視検査、両眼視機能検査
動的・静的量的視野検査
涙液分泌機能検査
角膜内皮細胞顕微鏡検査
眼球突出度測定
色覚検査(色覚表検査、色相配列検査)
眼底カメラ撮影
蛍光眼底造影検査
電気生理学的検査

画像診断（超音波画像診断、X 線、CT scan、MRI）
細菌塗抹標本検査

３．　眼科疾患の把握とその基本的治療方法を習得する

（１）薬物療法を理解し、外来診察を行う

（２）感染性疾患の予防、対策を習得する
流行性角結膜炎などウイルス感染症

（３）レーザー治療を理解し、以下の疾患治療を担当する
糖尿病網膜症、網膜裂孔、中心性漿液性網脈絡膜症、網膜中心静脈閉塞症
緑内障、後発白内障など

（４）眼科的救急処置を理解し、ICU、救急を担当する
角膜潰瘍、急性緑内障発作、網膜中心動脈閉塞症、網膜中心静脈閉塞症、
網膜剥離、外傷、角膜異物、化学薬品の飛入など

（５）眼科手術を理解し、執刀医、助手として手術を担当する

（６）眼科専門医受験に必要とされる要件を満たす

４．　失明予防を学ぶ

糖尿病網膜症・緑内障・網膜色素変性症・加齢性黄斑変性症などの患者と接し、治療することにより、患者の疾患への不安を知り、その接遇および知識を深める。
また障害認定を知る。

５．患者、家族と適切で親切な応対をすることができる

６．適切な診療録を作成できる

【研修指導体制】

（１）　原則として１年を研修期間とする。
研修医に対し医長以上が指導医として全期間を通して研修の責任を負う。
２年次以降については当院においての研修は出来ない（専門医取得するための条件を満たす施設は大学病院に限られており、当院で２年次以降の研修を行えば、専門医取得が遅れてしまうため)。

（２）　診察、検査、治療に関する指導は医長以上が行うが、検査に関しては時として視能訓練士の指導の下、行う。

（３）　研修医はチーム医療の一員として部長・医長・医員と行動をともにし、臨床医療を遂行する。

【研修方略】

（１）　オリエンテーション

眼科外来および病棟の機構と利用法の説明

研修カリキュラムの説明

（２）　外来診察

まず、卒前教育の復習を兼ねて、視力検査、視野検査、眼圧検査、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査など眼科診療に必要な諸検査や手技の習得に努め、眼科外来診療の流れをつかむ。また患者の問診をとり、必要な外来検査をすすめ、検査内容、結果について指導を受け、外来処置にも参加する。

眼科診療について参加研修の後、外来診察を担当し、治療を行う。

（３）　病棟研修

指導医とともに副主治医として患者を受け持ち、術前術後管理を学んだ後、主治医として入院患者を担当する。

手術時には手術助手として参加研修の後、執刀医としても手術を担当し、麻酔も担当する。

（４）　勉強会・手術症例患者の検討会

症例検討会で討議を行う

（５）　学会発表を行う

【週間スケジュール例】

	月	火	水	木	金
午　前	外　来	手　術	外　来	外　来	外　来
午　後	手　術	手　術	外　来	手　術	外　来
夕　刻	症例検討会		医局会		

【年間スケジュール】

卒後 3-5 年目　大学眼科にて研修を行う

【研修評価項目】　　ーチェックリストー

評価者･時期を下記のように定め、下記チェックリストを参考に評価する。

項　　目	評　価　者	時　期
経験した手術手技名・数	自己、指導医	3ヶ月毎
担当患者疾患名	自己、指導医	3ヶ月毎
症例検討会での提示	自己、指導医	毎週
学会発表、論文発表	指導医	1年毎

１．基本的診察法

□患者に対して親切な応対ができる。

□問診で患者、家族から訴えを聞き、正確な病歴が聴取できる。

□遺伝性疾患については家族歴の聴取と正しい記載ができる。

□問診から診察までに患者に必要な外来検査を考慮し、実行できる。

□結膜炎の診断ができる

□流行性角結膜炎の診断と取り扱いが適確にできる

□矯正視力検査と視力の記載ができる

□眼鏡処方とその処方箋への記述ができる

□散瞳可否の判断ができる

□以下の検査を施行し、結果を解釈できる

　□屈折検査(レフラクトメーター、ケラトメーター)

　□精密眼圧測定(空気圧式)

　□ボンノスコープを用いての眼底検査

　□額帯式双眼倒像鏡を用いての眼底検査

　□細隙灯顕微鏡検査、生体染色細隙灯顕微鏡検査

　□眼位検査、眼球運動検査(ヘスを含む)

　□立体視、両眼視機能検査

　□動的量的視野検査(ゴールドマン)

　□静的量的視野検査(ハンフリー)

　□涙液分泌機能検査

　□角膜内皮細胞顕微鏡検査

　□眼球突出度測定

　□色覚検査(色覚表検査、色相配列検査)

　□眼底カメラ撮影

　□蛍光眼底造影検査

□電気生理学的検査

□画像診断（超音波画像診断、X 線、CT scan、MRI）

□細菌塗抹標本検査

□患者および家族に疾患、検査、治療などについて説明ができる

２．眼科外来小手術と処置法

□以下の小手術・処置ができる

□角膜異物除去

□睫毛抜去

□涙管通水

□結膜異物除去

□麦粒腫切開ができる

□霰粒腫切開ができる

３．入院患者の診療

□入院前諸検査を理解し、諸検査をオーダーできる

□眼科入院患者と接し、患者の手術や疾患への不安を知る

□病棟看護師の仕事（術前点眼、術後点眼指導など）を知る

□白内障治療ができる

４．手術治療

□各種眼科手術ができる（具体的達成目標は以下の通り）

手技あるいは手術

（術者）	白内障手術	50 例以上
	網膜光凝固術	100 例以上
	翼状片手術	5 例以上
（助手）	白内障手術	50 例以上
	硝子体手術	3 例以上

５．学術的事項

（発表）　1 回以上

（論文）　1 編以上

６．文書記述法

□紹介状の記載ができる

□紹介状への返事の記載ができる

□診断書、証明書の記載ができる

□身体障害者の障害認定内容と身体障害者認定書類の記載法を知る

7．医療の場での人間関係、その他

□他科の医師と適切な相談や紹介ができる

□診療録の保管、管理などの法規制を知っている

□文献検索を施行できる